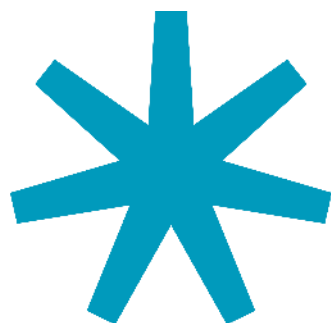


新千歳空港における国際航空貨物の概要について

北海道エアポート株式会社 貨物営業部

2023.8.1



**Hokkaido
Airports**

■ 沿革

新千歳空港における国際航空貨物を専門に取扱う施設である「国際貨物ターミナルSIACT」は、新千歳空港の国際化に伴い、北海道経済界からの要請により昭和61年（1986年）7月に設立された「札幌国際エアカーゴターミナル(株) (SIACT)」により設置されました。

その後、道内7空港民営化により、令和2年（2020年）1月にSIACT社は弊社の完全子会社となり、更に令和4年（2022年）4月には弊社と合併し、「新千歳空港事業所 国際貨物部」として、引き続き国際貨物ターミナルの運営を行っております。

長年親しまれた「SIACT」の名称は、国際貨物ターミナル施設の名称の一部として、現在も使用されております。

■ 施設概要

- 施設名 北海道エアポート(株) 国際貨物ターミナルSIACT
所在地 千歳市平和1388-7 新千歳空港内
主な事業
- ・国際航空貨物の積み付け、保管、運搬、荷役業務
 - ・上屋、事務所、駐車場などの賃貸並びに管理
 - ・青果物くん蒸施設の運営 ほか



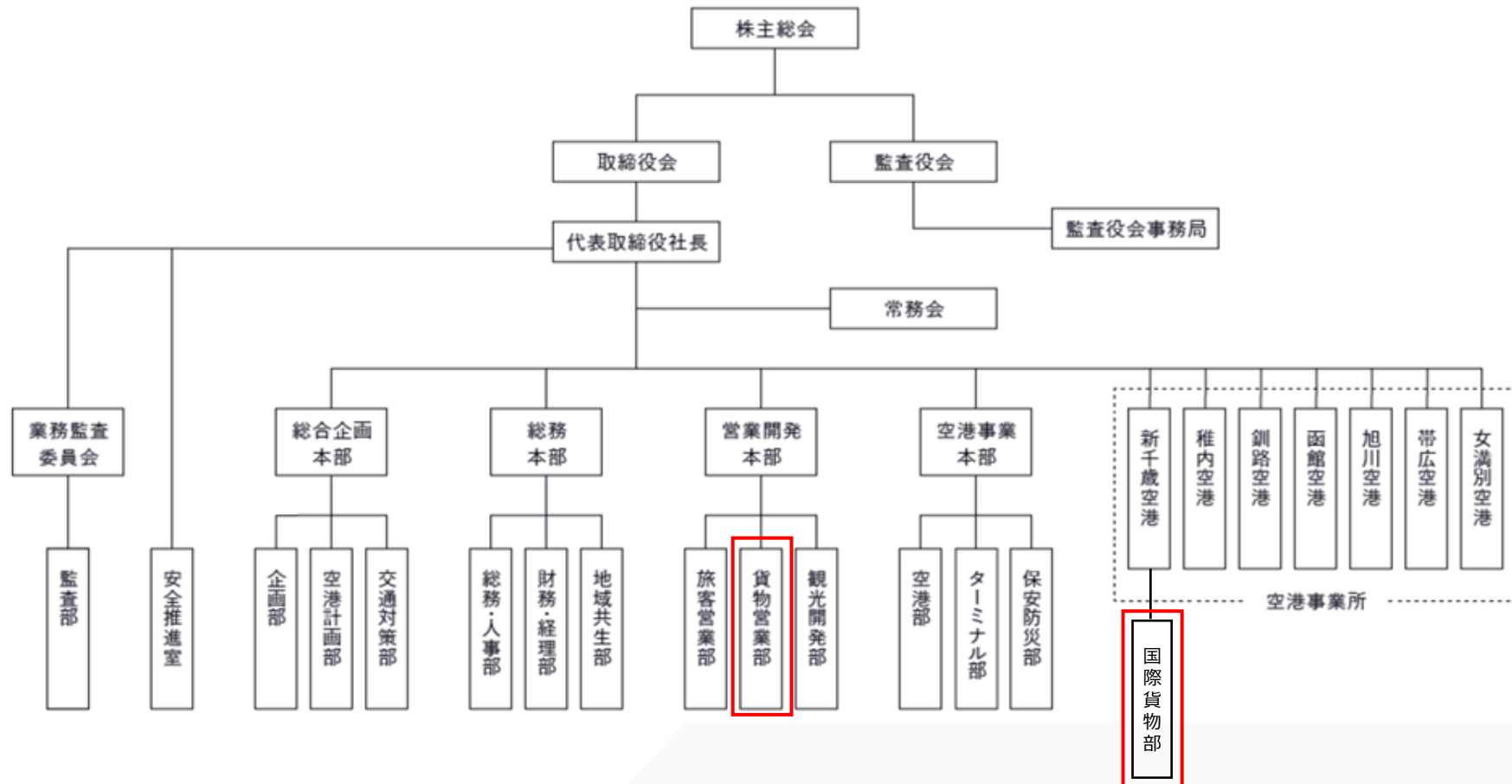
■ 施設の特徴

国際貨物ターミナルSIACTは、全国でも珍しい共同上屋形式で運営されております。

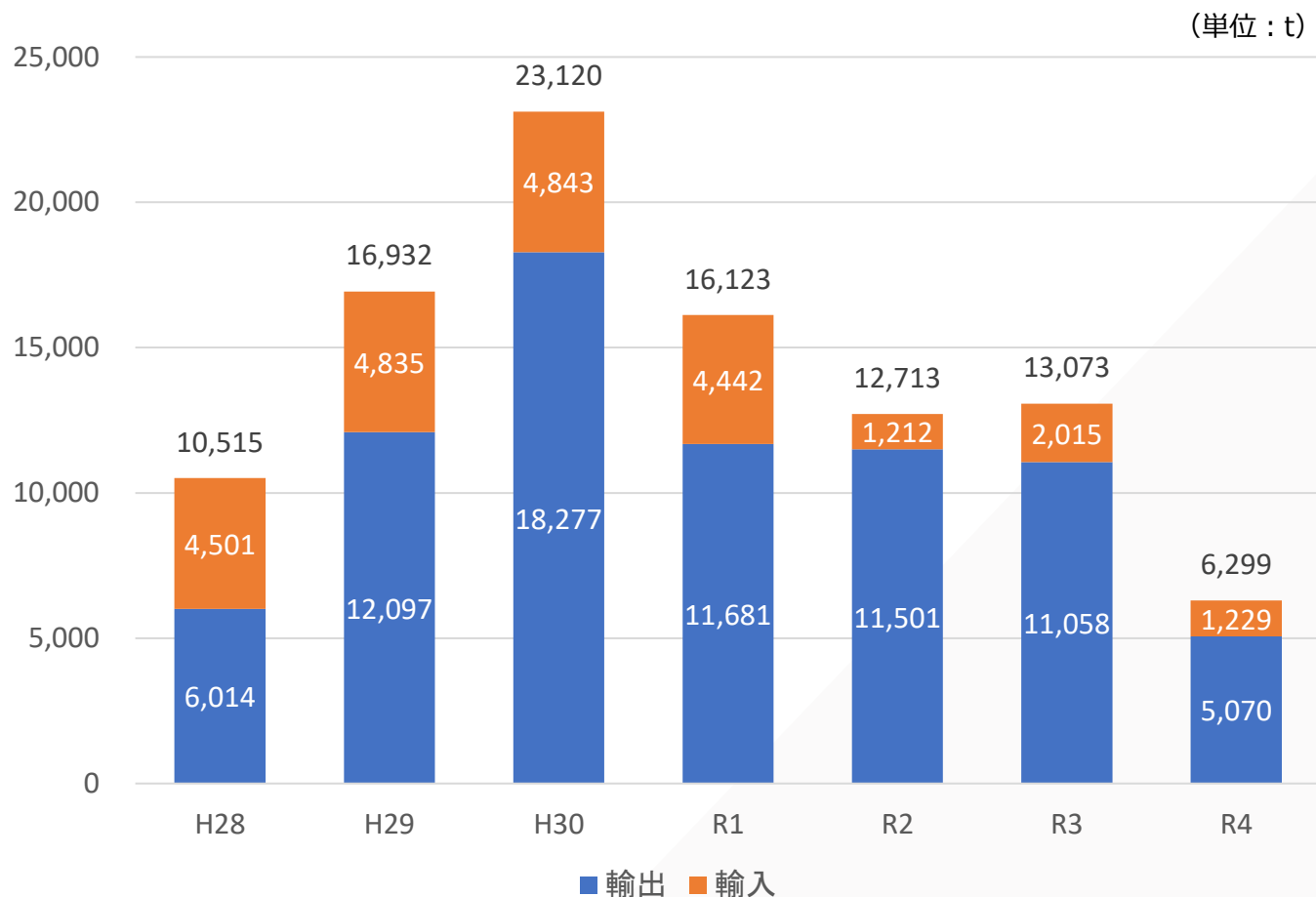
共同上屋形式では、①フォワーダーが行う手倉業務（貨物の検量・検尺、梱包、ラベリング、爆発物検査など）と、②エアラインが行う上屋業務（航空機に貨物を搭載するためのULDへのビルドアップや検量など ※実際の業務はエアラインより委託を受けた弊社で実施）が同じ上屋施設を使用して行われております。

フォワーダーが業務に必要とする事務室や施設設備（上屋、計量器、冷蔵・冷凍設備、爆発物検査装置、フォークリフトなど）、荷役業務などは弊社が有償で提供しており、当施設に入居しているフォワーダーは、大掛かりな設備投資を行わなくても、事務所の賃借と数名の職員を用意すれば、一通りの輸出入貨物業務が完結できるというメリットがあります。

■北海道エアポート(株)組織図



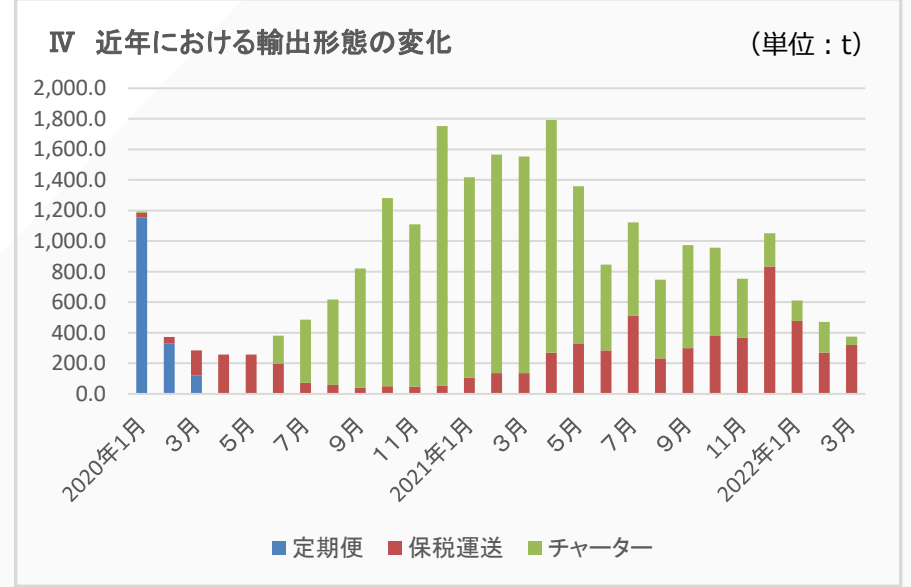
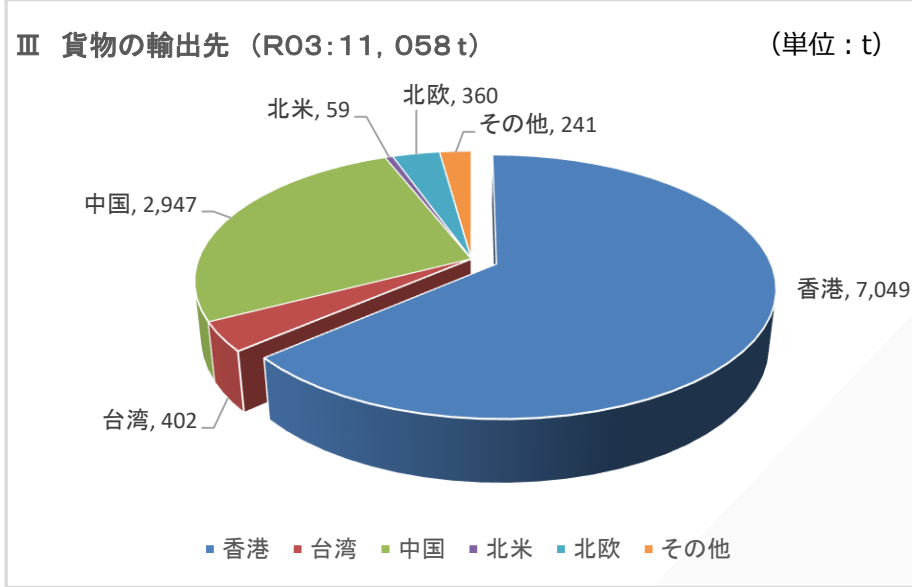
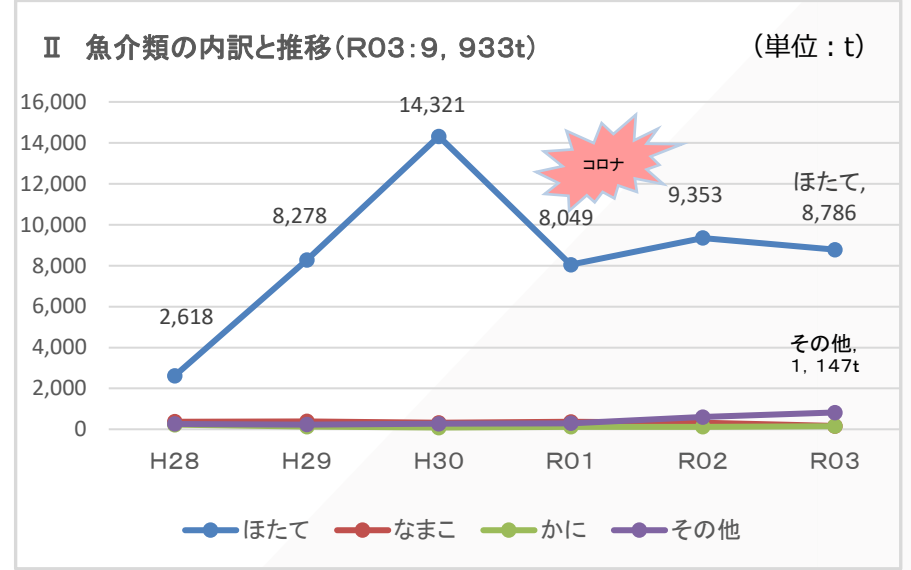
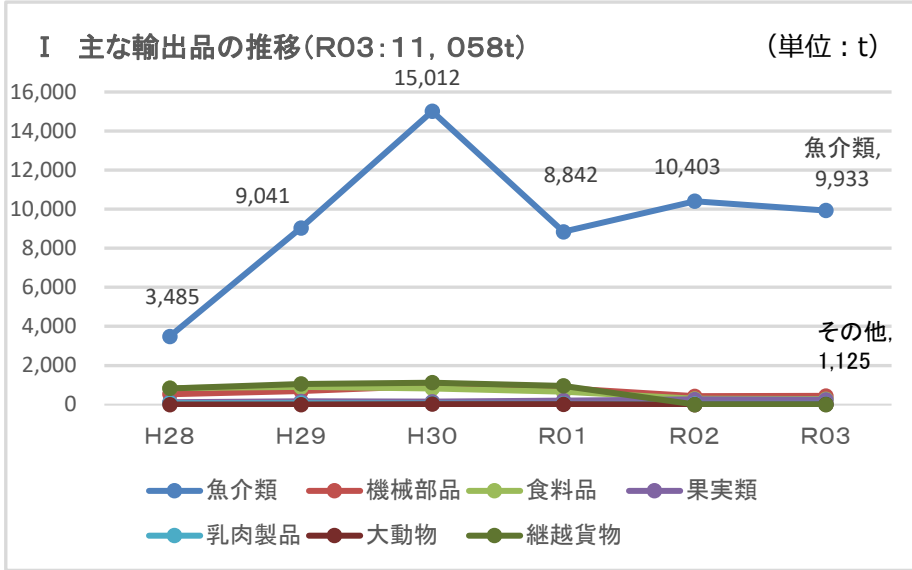
国際航空貨物の取扱状況



<近年のトピックス>

- * 令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症拡大により新千歳空港発着の国際定期旅客便が全面運休
- * 令和2年6月～令和3年4月迄、農林水産省「食品等輸出物流ルート確保緊急対策事業（物流ルート確保事業）」を活用し、貨物臨時便による直行便輸送が実現

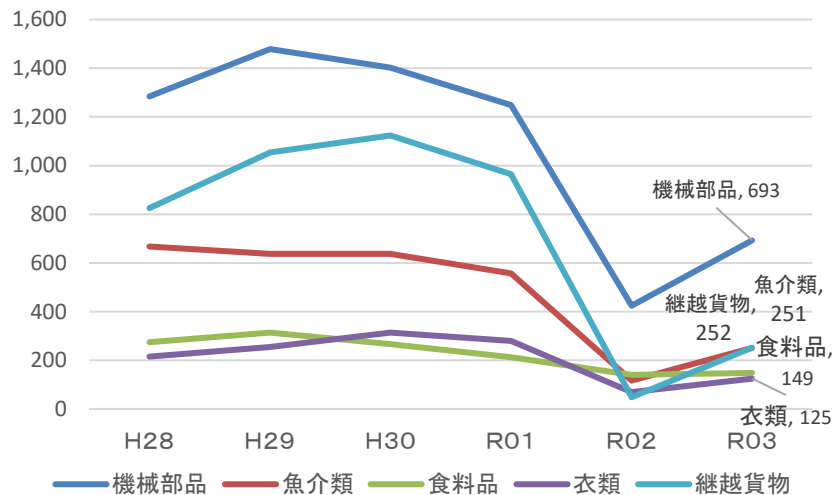
国際貨物の取扱状況（輸出貨物）



国際貨物の取扱状況（輸入貨物）

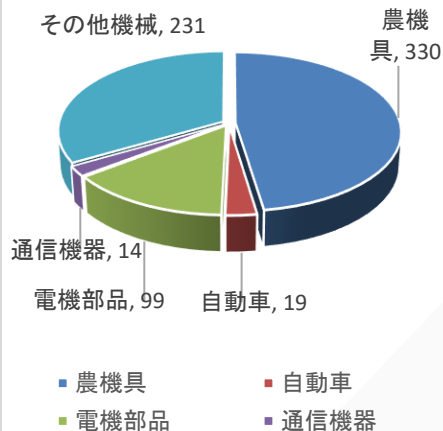
I 主な輸入品の推移

(単位：t)



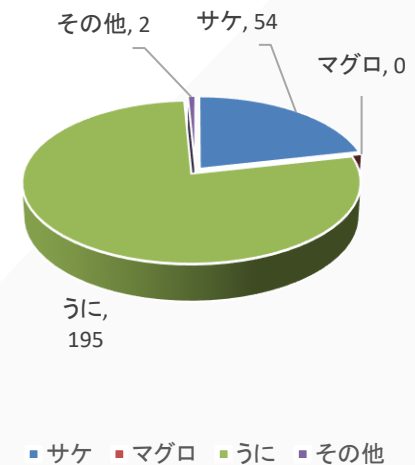
II 機械部品の内訳(R03)

(単位：t)



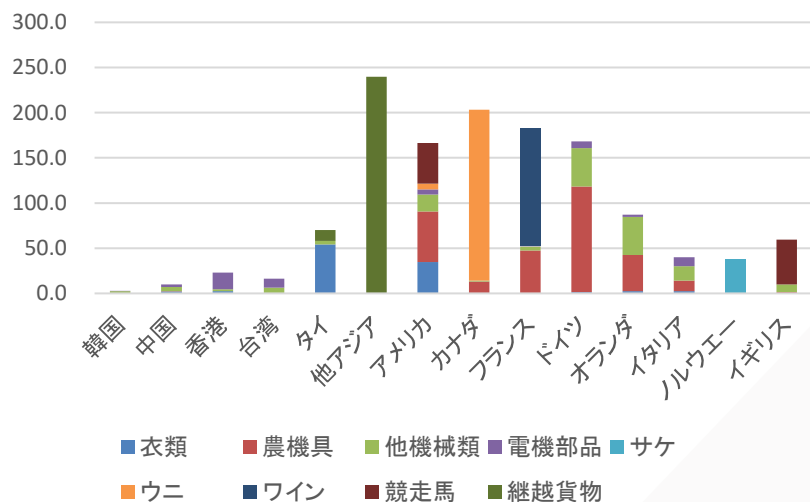
III 魚介類の内訳(R03)

(単位：t)



IV 国別の主な輸入品目(R03)

(単位：t)



V 近年における輸入形態の変化

(単位：t)

